

ちよつとそこまで

# わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる  
古里の温もりに包まれながら  
あちらこちら、わがまち散歩

おみね編  
小峯



松村さんが育てている三本仕立ての菊



ニッコリとポーズを決めてくれた、左から前田さん、藤堂さん、中村さん

県道36号から北側に広がる小峯地区。熊本市と隣接するこの地区を散歩しました。入植の歴史や、昔から大切に守られている場所など、あちらこちらと巡ってみました。

## 明治初期に入植 馬の守り神を守って

県道36号より北部に広がる町の行政区、小峯地区。住所は古閑ですが、昔からこの辺りは「小峯」と呼ばれています。地区を囲むように熊本市区小峯と戸島が隣接し、お隣さんでも路地を一本隔てれば、熊本市と益城町の行政区に分かれます。

「昔は茶畑やカライモ畑が広がっており、明治初期ごろに『四軒家』と呼ばれた4軒の人たちによって開拓

が行われたと聞いとります」と話すのは農家を営んでいる松村福蔵さん(86)です。松村さんの自宅敷地は、新興住宅地の中にあつて昔ながらの農家の風情を漂わせています。

小さな道がクネクネと迷路のよう



現役農家の松村さん。とってもお元気

に入り組んでいる小峯地区。その一角にあるのが、益城三十三ヶ所めぐりの第12番札所「小峯観音堂」です。本尊に祭られているのが「馬頭観音菩薩」。頭上に馬頭をいただき顔が3つある三面八臂で、怒りの形相をしている顔変化の観音さまです。

農機具が発達していない時代、馬は開墾や農作業には欠かせないものでした。小峯観音堂は農耕用の馬の守護神として、ここに移住した人たちによって建立されたと伝わります。

「毎月1回、老人会や婦人会で清掃し、大切に守っています」と藤堂昌邦さん(85)と中村隆二さん(84)、前田秀明さん(86)が教えてくれました。

## 自宅を開放して グラウンドゴルフ

明治の初めに4軒の入植者たちによって開拓された小峯地区。「昭和28年ごろには40軒近くに増え、現在は約550軒が暮らしています」と話すのは区長の宗野勲さん(69)です。毎週月・水・金の3日間、宗野さんの自宅敷地内は朝早くからグラウンドゴルフを楽しむ地区の人たちでにぎわいます。

驚くのは敷地の広さ。「地震後、グラウンドゴルフをする場所がなくなり、自宅前の畑を整地して開放しま



上／農耕用の馬の守護神として崇められてきた小峯観音堂  
右／頭に馬頭をいただいた馬頭観音菩薩

